

《讃歌》ふたりの詩

画・石阪春生

みずいろのドアー

季村敏夫

みずたまをはじいて

女は夏に匂ってくる

髪も乳房も

素足のおくの

谷や茂みまでも濡らして

女はつよく匂ってくる

青空のあれら音譜たちに

どんなうたわれかたが

残っているのだろう

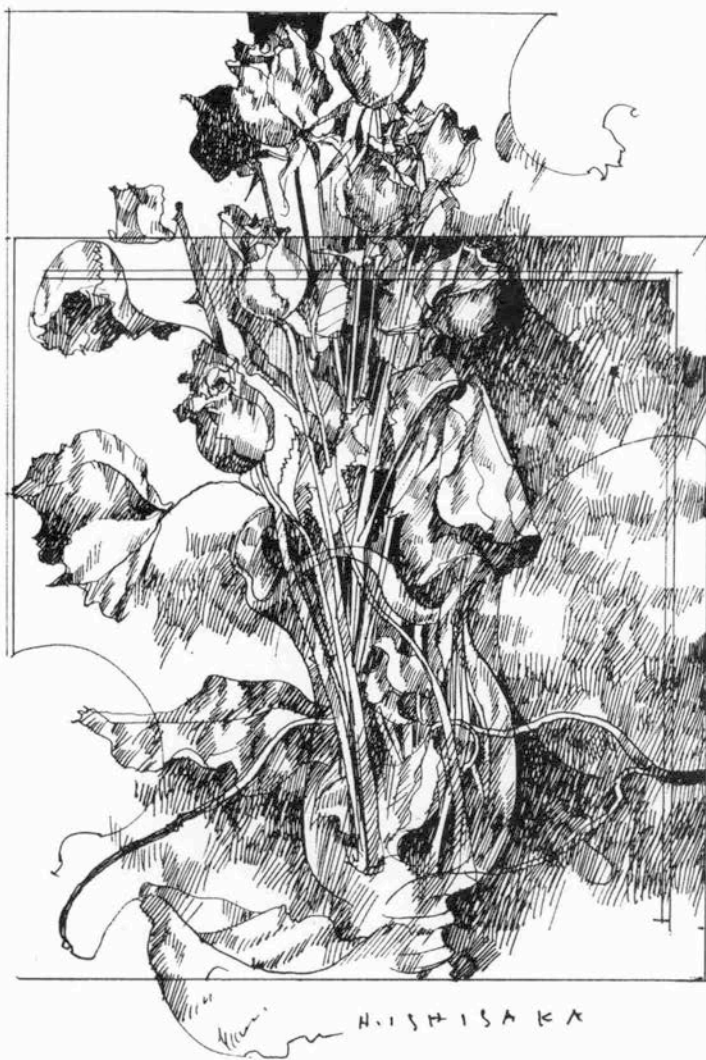
小さな突起のうえを

光や水にそって

陽ざしの粒は

どんなハミングで

すべるのだろう
あのほろ酔いの
前菜のような風のドア
しぶきの窓の
みずいろのドアを
燃やすことができたなら



〈讃歌〉ふたりの詩

画・石阪春生

照 明

鈴木 漠

一対^{いっつい}する男と女

ふたりの間に流れる時間は

光の斧とも思えるだろう

樹木のたたずまい

幾千のエコー

碧落を渡ったまま

帰らない飛行船

いつからか家具調度は使い古^{ふる}り

鏡はすこしく曇りを帯びるが

男と女

が 積み累^{かさ}ねる日常の

ありふれた風景の中に

永遠は

敷布のように畳まれる

そして大いなる空虚もまた

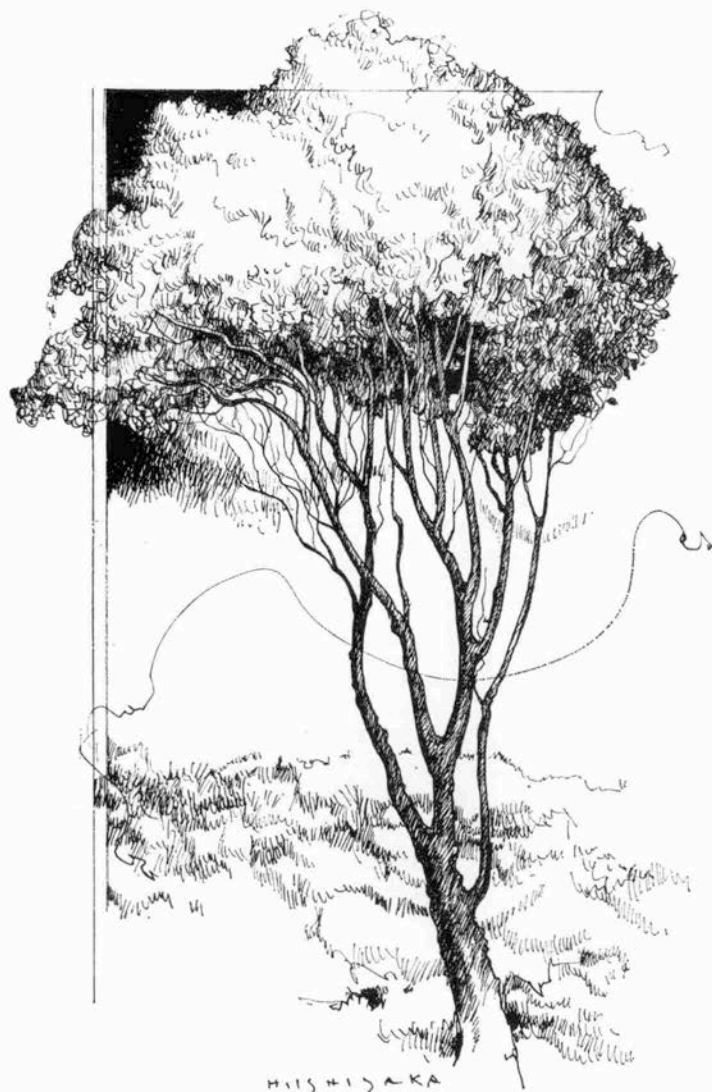
こちらをばかり視ている家族の写真

遊ぶ子供の声々

相対^{あいたい}して男と女

互^{かた}みに秋の照明となる

あるいは果実の房^{ふか}となる



HISAKA

〔讃歌〕 ふたりの詩

画・石阪春生

夜の貝

福田知子

水平線は 蝶つがい

夕暮れになると

空と海を

静かに ひらく

うねうねと うごめく

かたちのない貝まみれ

のなかに

たったひとつ

うつくしい いのちの夜

液体とも固体ともつかぬ

こころのひとかたまりを

水の中でのみ 透明でいられる

水海月のような あい

もある

ホントウノ キズグチヲヒキサキ

ナガラ

アイスルブンダケ ウソ

デ カタメルコトヲオボエタノハ

イツカラダロウ……

夜が うごく

水が さわぐ

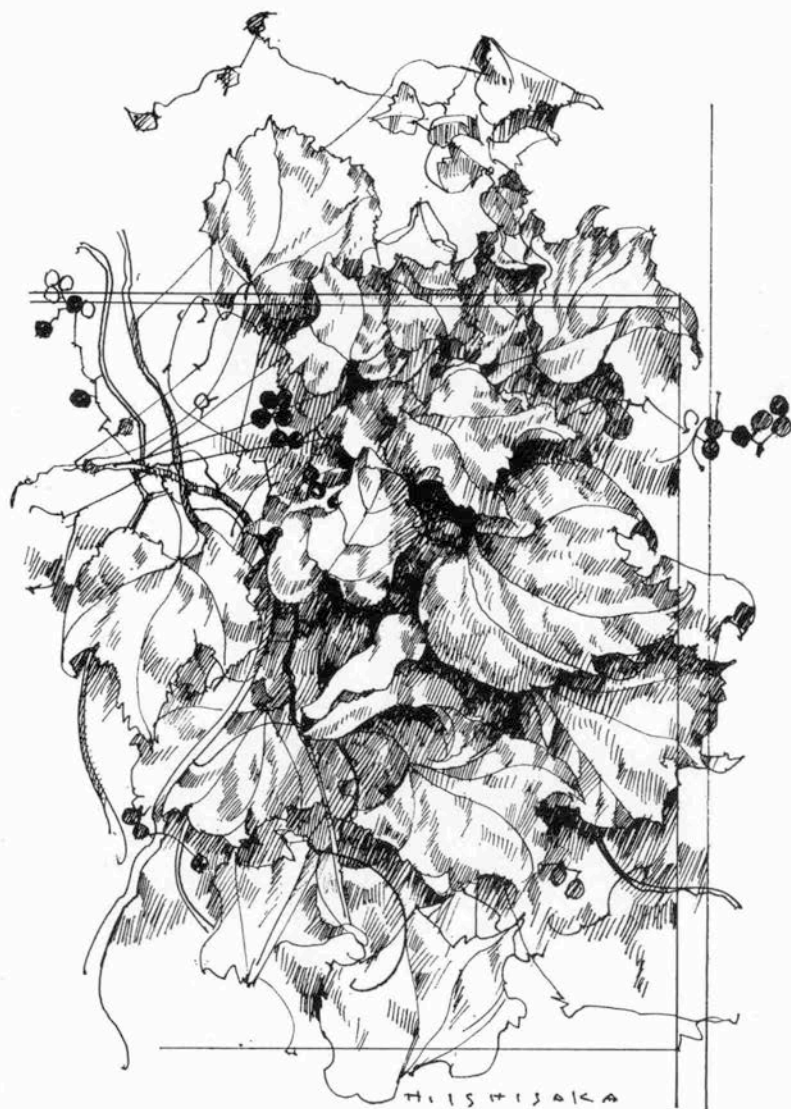
地底 ふかく

雲母の隅でひらく花がある

夜光虫のように発光させながら
わたしもまた

ひらかれた 夜の貝

水の中で 生きられる



〈讃歌〉
ふたりの詩

画・石阪春生

映像

多田 智満子

雲に兆^{きざし}がある

ひびわれた骨に兆がある

喪神に向かつていそぐな心よ

すべて美しいものは風に描かれてある

白い階段の下に

ぬぎすてられたエナメル靴

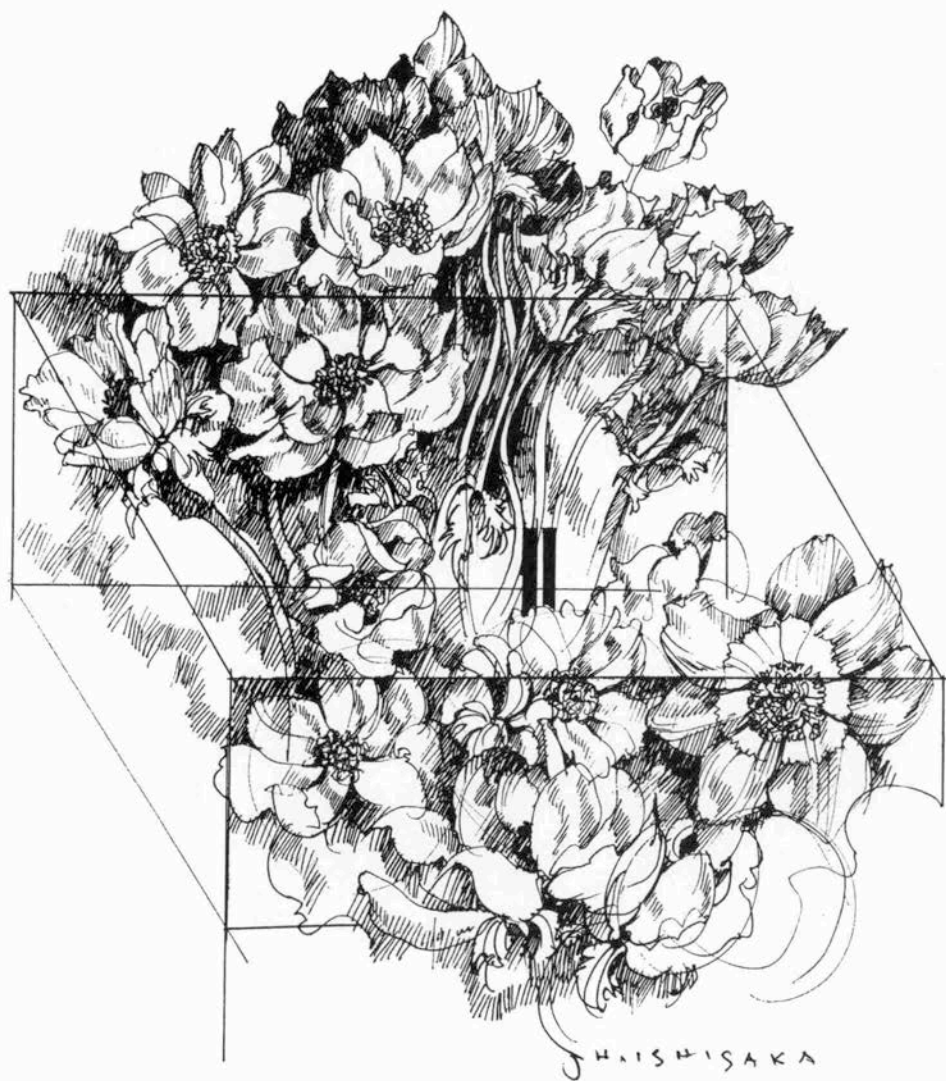
偽誓する恋人たちの群が

コスモスのなかに消え去ってすでに久しい

ゆびの隙から水銀は洩れ

鳥は疲労の遠景に沈む

散乱に向かっていそぐなおお花粉よ
すべて美しいものは風に描かれてある



〈讃歌〉ふたりの詩

画・石阪春生

あなたの体が

安水稔和

あなたの体が

あなたの体である

ということ自体、

蝶の夢という

言葉のように

とりとめがない。

あなたが心にかくして

みせた許しと同意のように

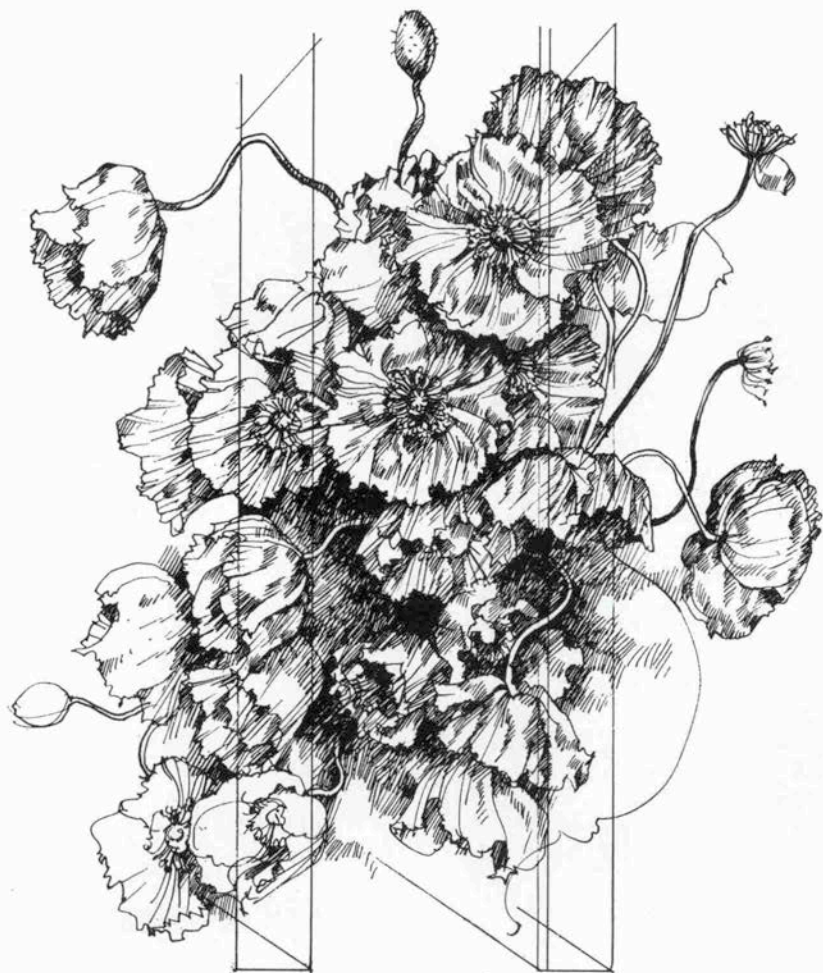
とりかえしようもない。

いつとなく開いた熱いぼくの

掌のように

どうしようもない。

あなたは
不可避であり
なにか不可能な
誓いのようにおもえる。



H. ISMISAKA



月刊神戸っ子編
定価250円
好評発売中!

'87 EXCELLENT KOBE

'87エクセレント神戸

●town／北野坂からあなたへ

パステルカラーの夢と詩情 ベルエポックの魅惑と憂愁 “マリー・ローランサン”

少女時代に出会った、あのピンクと淡いグレイの色調で描かれた“マリー・ローランサン”の、ちよつとアンニュイな巴里の女たちの絵は、優雅で、ボエジーで、何やらうっとりとした風情に、こちらまで誘いこまれて夢見心地になつて、それは巴里への憧れにもつながった気がします。



この秋、北野坂の「マリー・ローランサン」で出会えるよう…。

ミラボー橋の下を
セーヌ河が流れる
そしてぼくらの恋も
どうしても

思ひ出さねばならぬのか
歎びはいつだって
苦しみの後に来たと

ギヨーム・アポリネールのあの有名なミラボー橋の詩は、マリーと二人の恋を淡々とした口調で詩っています。

彼女自身は、単に愛らし少女だけの画家でなく、ピカソや、ロダン、リルケ、アポリネールなどと親しく、第一次大戦直前の最も前衛的なキュビズムの芸術運動のグループに加わり、一九三〇年代はパリの社交界の中心人物でもありました。

巨匠ロダンを「彼女は優雅の意味を知っている」と、感嘆させ、詩人のアポリネールは「このような女性の芸術は世紀の誇りを成すものだ」といわせたマリー・ローランサンの作品は、造形プラス詩情、独自の世界を構築しています。

このベル・エポックの女王のパステルカラーの世界が、KOB E北野坂に十月「マリー・ローランサン」としてお目見得するよう…。あの美しい恋人たちに、この秋、北野坂で出会えるかと思うと心ときめくのです。

活感^{プラス}……

尼川 洋子

(女性問題懇談会それいゆ)

★^{プレイス}阪急と保育所がとりもつ縁

——今日は結婚特集ということで尼川さんは『結婚そして夫婦・家族』という本をお出しになられ、また竜巻さんは、主婦でありながら漫画を描き続けているということで、御出席を願ったわけですね。まず、竜巻さんは何がなれそめで御結婚されたわけですか。

竜巻 関係的には、高校の先輩・後輩になるんですけど、学校内にいた時は、ほとんど知らないんですよ。向こうも私もロックバンドをしていて、向こうの知り合いが、私がいた美術部の先輩だったので、まあ知っている、という程度だったんですけど。それがちようど阪急の優勝した年、彼が熱烈な阪急ファンで、「優勝だ!!」と引き上げて来た時に阪急電車に乗っていて、単に顔見知りだったというだけで「よし、おごってあげる!」と。それからなんです。だから阪急がとりもつ縁と言えます。

尼川洋子さん



すね笑)。

尼川 うちは、2人とも当時としては、かなり齢で。27歳と30歳かな。

竜巻 今なら大丈夫ですよ(笑)。

尼川 今なら多いみたいですけど、当時でしたら齢でした。

私は学生の頃からフラレの名人で、自分から言いくとフラれてばかりいたんです(笑)。待つてられないんですよ、言ってきたらうのが。それで言いくに行くんですが、色んな断わられ方をして。

『これは、私はもう結婚は無理だろう』と思ってたんです(笑)。申し込みに行くって『しっかりしすぎてる』と言われるんです。それと色気がないのかな(笑)。時々、齡下の男の子から慕われて、上手く

行くかな、と思ったら、承知した後にすごく嫌いになって逃げたし、まうような(笑)。だから、私は他の道で生きようと、割とフツ切れていた時期だったんです。

それで、大学の図書館に、その当時はもう勤めていたんですが、保育所を大学構内に作りまして、それが面白くて、とにかく産休明けて、公立の保育所が無いもんですから、どっかそういう所を作らなくちゃいけない。当時、大学の中に保育所を作るといふ運動が流行っていた時期だったんですけど、うちも作ろうということで作りました。その事務局長だったんです。独身だったんですけど、周りの人が、子供が出来たからって辞めて行く人が多かったから。

協同生 親友って

竜巻 竜次

(漫画家)



竜巻竜次さん

それで、すっかりそれに夢中になりました。そんな時に、彼が九州から転任してきたんです。それで私も天草出身だったもので、一応紹介はされたんですが、こういうのは全然あわないなと思っていました。2年・3年ほどあったんですけど、保育所運動に熱心になつていた時に、彼が誘われて会な

んかに来ていまして。あまりにとりあわせがおかしいんで、何か印象に残って。だから、保育所を私が一生懸命にやっていたから出会ったって感じ。それがなかったら、そういう集まりに彼は来なかっただろうし、全然目立たなかったんだろうと思うし。独身で無口な人だったから、そんな会には非常にくめずらしくて感心があつたし、逆に、その会で、非常に私が目立っていたわけ。全然自分とは違うタイプだということで感心があつたそうなんです。

竜巻 でも独身の男性で、そういう会に出られるのは、変わつてらっしゃいますね。

尼川 女の人が働くのは当たり前だと思つてたみたいで、それでも、

保育所まで作る運動をしているのが面白いと。それでちよつと出てみようという感じで来たらしいんですけれど。でも、かえって目立ってしまったって(笑)。それで、誘われたのは、向こうから誘われたんですけれど。あんまり無口な人だから、断わつたら悪いような気がして(笑)。

竜巻 私は結婚なんという気は全く無かつたんです。大学の友達にも、高校の友達にも私は一生しないから、と公言してたんです。一人で生きてゆき、一人で死んで行くんだ。って。それでも最初はグループ交際みたいなもので、2人で会つてることなんて、まずなかつたんですね。何となく、ズーツとそういうのが続いて。で、あたしもそれ以上、どうこうするつもりはなかつたんですけれども。向こうが、どういう気であつたか知らないんですけど、公営住宅。市営住宅を申し込んだんですよ。あれは、そうそう当るもんじやないから。それで、あれ「愛人」という名前だつたら、入居しても籍に入つてなくてもいいんです。それが「婚約者」という名前にすると、当つたら、半年以内か三カ月以内に婚姻届を持って行かないかんというのがあつて(笑)。向こうはそんな全然知らなくて、一応、じゃ「婚約者」の名前



で書いて申し込んで、3回目に当たったのかな。

尼川 あなた知ってたの、そのこと。

竜巻 全然知らなかったです(笑)だから「申し込んで当ってしまったんやけど、あかんねんて」とか最初に言うたから、「そら、しゃーないね」て言うてたんやけど、一回公営住宅で断わったら、二度と入れてくれないらしいんです(笑)。それで、「どうしようか」「籍だけでも入れといてもエエねえ」とか言って。「では籍だけ入れよか、まああんた一人で住んどれ」言うたんですよ(笑)。そして両親が烈火の如く怒りまして。「だったら、キツチリ結婚せえ」と。で結婚したみたいなもの。阪急がとりもつ縁で、神戸市が仲人した(笑)。そういう風に言われているんです。

尼川 私は2回目に誘われた時、無口な人なので、何で2回目に誘われたか分らないんです。だからつい私が「結婚したいんですか、私」と言ったら、「まあ、その

方向で」と(笑)。それで、これは断わらなくてはいけない。しばらくたかないから。とにかく、やりたいことが出てきてる所だから。料理も出来ないし。とにかく何もそんなことはやりたくないんだ、と言ったら、「そんなことは3年間見てたから、よく分っている。僕もあんたをそんなに束縛して家庭に入ってもらってどうのこうのなんて考えてないし。まあ、料理なんて何とかなるだろうし」って、すごくカッコのいいことを言ったんですのよね。そういうことを。静かに言われると勝手が違って、断われないんですよね(笑)。それで結局自然的に2回目で決まってしまう。

竜巻 世間で、スッタモンダして結婚するとか言うのを聞いて「そら何で」とか思ったりするんですよ(笑)。私は結婚するという意志があんまりなかったんです。住宅が当たった時なんか、私は仕事をやりたいというのがあったから「まあいなさい。籍位貸してあげる」と(笑)。

★まるでマンガの結婚式
——尼川さんはどのような結婚式をされたんですか。

尼川 私達は、どちらも九州から出てきて、もう親から独立していたもんですから、両親には「こんな人と5月何日に結婚するから」と連絡しただけで。まあ2人とも齢がいつてましたから、両親も、もらってくれる人がいたら誰でもいいと(笑)。それで、両親からお金を全然出してもらわずに、舞子ビラで。仲人もありませんし、神前の結婚式なんかもせず。衣裳なんか友達の手作りで、非常に安く作ってくれました。私達は指輪もないんです。指輪なんかで縛られるのは嫌だ」って(笑)。料理こそ違いましたけれど、会費制のパーティーにして、本当の手作り結婚式でした。

竜巻 私は言うのが恥ずかしいんですが、何と「玉姫殿」で結婚式をしたんです(笑)。私は結婚すると決まった時から親が出てきましたでしよ。私は「籍を入れるだけで結婚式などしない！」と言って

たんですが、「そんなものは、世間には通用するか」と。まだ親がかりでしたから。仕事もそんなに無かったし。家で親にズツと食べさせてもらってたから、どこか心苦しい所がありましたし。「それなら好きなように」と言ってたんですよ。それでしたら、やればやるほど、話し合えば話し合うほど派手になるんですよ。何せ、場所が玉姫殿と決まってるから早かったんですよ。籍を入れてから年内中に結婚せえと。で、12月の末に結婚したもので、開いているのは玉姫殿しかない。会場に行く度に、「料理はこれでは」とか

式なんて簡単なものいいと思っていたから口惜しくって(笑)。——最近の周囲の人の結婚式はどうですか。

「キャンドルはもう少し増やされた方が」とか、どんどん増えて行くんで、「いらん、いらん」と言ったんです。しかし、ああ言う場所になると、おばあちゃんとかが出てくるんですよ(笑)。

尼川 やっぱりホテルとか、そういう所が圧倒的。確かに花嫁衣裳はどうとか、新婚旅行はどこへ行くとか、自分のことを考えているようで、ちっとも考えてなくて、ただ乗せられてだけなわけですね。ですから、もう少しユニークな、自分達じやなきや出来ない結婚式だとか、自分達だけでってのが無いのかなあと思って。

尼川 急にね(笑)。

尼川 私文金高島田でやったんですが、お色直して面白いことがあったんです。結婚式が12月20日だったんです。そしたら年内最後の駆け込み結婚式大吉、というやつで(笑)。大安吉日最後の日だったんですよ。そしたら20組か30組位。花嫁さんのお色直しの部屋が1室しかなくて、そこに30人位が、ダーツと入って行って、ワーッとやってるんです。着物の着付けも普段はゆっくりやってるんかもしませんが、正直カーツと

で、みんなドレスとかのスソを持って、ダーツと走るんです。時間が無いから。階段を2段位駆け上がって(笑)。で、「新郎、新婦御入場です」という時、肩で息してる(大笑)。あれは凄かったですね。他の人もけっこう、結婚式が

(笑)。そこでお嬢さんが、お嫁さんを間違えて、同じ服着て待ってからはから(笑)。「おーい、こっち、こっち」と呼んだら、全然違う2人だったとか(笑)。あれは一種、ギャグでした(笑)。完全漫画になりました。もう、そのまま持って行っても充分に、その日の一日描いても大長編ギャグが出来あがるんじゃないかという位(笑)。倒れてはる人がいるんですよ。緊張して、胸をしめつけられて。丁寧にゆっくりゆっくり順番踏んで行くんやったら大丈夫でしょうけれど。一時にやるもんやから、12月の寒い時期なのに、暖房が入って、お色直しの部屋なんか、ムンムンになってるんですわ。3人位倒れて、パタパタとやっていて(笑)。本当にギャグでした(笑)。

で、みんなドレスとかのスソを持って、ダーツと走るんです。時間が無いから。階段を2段位駆け上がって(笑)。で、「新郎、新婦御入場です」という時、肩で息してる(大笑)。あれは凄かったですね。他の人もけっこう、結婚式が



重なってどうのこうのという話は聞きますけどね、ホテルの結婚式なんて。あれほど凄いのは、ちょっと無いんじゃないかな(笑)。

尼川 本当に、そういう意味では作られた結婚式というのは、感動も何も無いんですよ。私達は貸衣装でもなく、手作りでサイズが合ってますから、自分で着ても着れる位の服だったし。早くからロビーに出てきて、「お前花嫁だから、引っ込んでろ」って(笑)。久し振りに会うから「ヤア・ヤア・ヤア」位言って(笑)。自分がどんなカッコしてるの忘れなやって(笑)。「花嫁さんだから、もう少しヒッコシどれ！」(笑)。

竜巻 友人なんかの、仲人なんか立てない結婚式なんて見ると、やっぱり感激しますね。何かこう一生懸命やってる、つてのが伝わってきますでしょ。で、新郎・新婦だって、そんなウワツいた気持ちじゃないから。何か感激して、「いいなあ」と思いますね。不覚ですね。一生一代の不覚ですね(笑)。

★結婚で縛られることはない

尼川 私が『結婚そして夫婦・家族』というこの本で書いたことですが、仕事も、家庭も、自分も、つてのが基調なんです。そういう生活をする上で、私達は、こうい

う風な生き方をしてきたという部分が1つと、これからはこういう風にもして行けるんじゃないかってことが、もう1つで、後から来る人達のために書いたんです。やはり、自分達の生き様を見て欲しい、つてのがベースにあるわけですね。実際にやってきたことも書きながら、その根底の思想みたいなものも書くという形で、両方から書いてみたんですけれど。

これが面白くて、一

番受けとめてもらいたい20代の女の人が「しんどい」って感想なわけですね。あたしは、仕事も、家庭も、自分もやって来だし、やって行けると思ってるんです。色んなこともあるけれど、そんなことも2人で一致すれば出来るんだ、つてことを言いたかったんです。でも、「私たちは、仕事も、家庭も、自分も、つて考えないですね。仕事と自分か、結婚かって区分けをするんだ」と。「仕事をするなら結婚しない。結婚するんだったら仕事は捨てる。どっちかだ。両方はとてもやれない」つてことを割と言われて、ガックリしたんです。逆に、26・27歳の男性はそうじゃなくて、「こういう



尼川サンは
実に素敵な人ぞ
彼女をふった男どもは
さぞ「こかいのぼぞ」を
かんでいふだろー

生き方に共感を覚える」つて手紙がワッと来るんですよ。「やっぱり、こういう風に、1つ1つ問題を解決しながら、前に進んで行くつて生き方している女の人に、非常に共感を覚え、自分もこの結婚とか、そういうことを考える時に、やはり、そういうことを考えて行きたい」とか。それから30代の男の人は「今まで、女房から色々言われてたけれど、よく分らなかったんですが、こういうことだったのか、つて良く分った」と。割と男性側には好評でした(笑)。

結婚を1つの枠に思っちゃうとダメなんです。結婚は枠じゃないですから。男の人にとっては、

本物はだれだ?!



結婚は梓じゃないわけです。そういう意味では、私達女性にとっても、梓じゃないはずなんだから。竜巻 そうですね。だから、結婚してみ始めて、ああ、そういうもんでもないなあ、という。やっぱり、する前は何か縛られて、動きがとれなくなっ、ていうのがすごくあったんですけどね。そういうことって無いですね。最初はお互いに何か葛藤みたいなもんはありますけどね。他人と一緒に暮らすわけやから。でも、それやったらルームメイトも一緒ですからねえ。で、お互いの生活タイムレコーダーみたいな分かってくる、ウン、これは割合、あれはこ

れやろ、っと分ってきたら、そんなに、縛ったり、縛られたり、ってもんじゃないと分りますね。

尼川 お互いが、独立した人間なわけだから、最初から一体で、どうのこうのいうことはないし。

で、すごく幻想があって、何か、ついて行きます、とか、ものすごく一体となるのがベターみたいだけど、一体じゃない方が上手く行くんですよ。それぞれが別々だってことを、お互いに分っていた方がスムーズに行くような気がする。だから、今の逆だと思うの。

今、言われていることと。だから一体でなければならぬ、ってとこから出発すると非常にしんどいし。色々とはめなく

ちやいけないけど、それぞれ別々ってどこに行けば、けっこう面白いですよ。結婚生活ってのは、かなり近くで暮らすわけだから。普通の人間関係より、もっと密度が

濃いわけだから。10年たって「エッ!こんな姿を」って発見がいくつも、まだあるし。だから、お互いに別々な人間だっていう風に、割と早くに思えば、後は面白い。敵はどういう風に動くかとか(笑)。

竜巻 だから、ウチは他人から見たら同居人とか、夫婦じゃないとか言われているんですけども(笑)。でも、最終的には同居人ですからねえ。惚れたハレたなんか、どんな無くなってきた。

尼川 協同生活者プラス親交。という感じが、今はピツタリするんですけどね。やっぱり協力者とかね。何か、そういう意味あいのペアであって。最初は、恋愛感情なんかがあって、男と女の感情もあったりして結びつくんだと思うんだけど、それ以後に出てくるものというのは、本当に協同して何かやる、一番身近な友達という所が非常にあって、これは他の人とは分ち難いもんだから、絆というようなものになると思います。それが無かったら、長年暮らしているとアキがきて、いいのが来たらアツナとか(笑)。やっぱり協同の絆というのがあれば、チョツとそうは行かない、ってことになりますから。

竜巻 あんまり夢を持たなすぎたんが、けっこう良かったんじゃないかと(笑)。結婚生活に、すごい夢を持てると「アツ、こんなはずじゃなかった」と言うのが強いんじゃないですか。

(笑弥にて)